第 2 部　CODI による計画会議（1 月 8 日開催）についての報告

translated by Aine Nakamura

参加者：CODI のバンコク事務所及びパッタルンに所在する南部地区事務所の 40 名ほどのスタッフ、Human Settlements Foundation 及びThai Community Foundation 等のNGO の人々が集まった。大きな会議用テントで集合した。ブンブン飛び回る膨大な量の蚊を叩き落しながらそれぞれマットの上に座った。今後キー・パーソンとなり得るタイのシニア・コミュニティ・オーガナイザー達のほとんどが集合した。彼らは、様々な形で津波救援活動に携わっている。下記に挙げる議題等が話し合われた。

バン・ムアン　キャンプの状況　カムノン氏による説明： シニア・コミュニティ・オーガナイザーであるカムノン氏は、人々がキャンプを運営する上で大変役立った活動体系について説明した（10 家族毎に 1 ゾーンに分け、各ゾーンにはリーダーが 1 名いる。）。現在では、キャンプの人々がボランティアで様々な仕事を引き継いでキャンプを運営している。とても良い進展である。重要な決定のほとんどは外部者ではなくキャンプに住む人々自身でなされている。何時でもキャンプ内で問題があれば、会議が開催され、決断が下される。カムノン氏は、人々と、地方自治体及び村長との間でとても良い協力体制が築かれている、と話す。地方当局が「人々の話に耳を傾ける」ことの重要性に気付いたのだ、とも語る。カムノン氏は、現在チームの一員として、医師達への説得に力を注いでいる。医師達には、短期間支援活動を行いその後帰ってしまうのではなく、人々がコミュニティを再建し生活を取り戻す過程を視野に入れて長期的に人々と協力するよう、説得しているのだ。例として、いくつかの子ども支援団体と芸術系の団体は、説得を受けて、被災した子どもたちに対する長期的教育・芸術プログラムを通した支援に向けて、人々と協力し、長期的計画を作ることになった。

永続的に居住出来る家を建設する為の土地の問題は、人々の将来を保証する上で、最も重要な課題である。カムノン氏は、タタワン通りのキャンプへの訪問について話している。当該キャンプは、バン・ムアンに比べて小規模である為、土地について話し合う目的で人々をまとめることがより容易である。同氏は、人々が津波以前に住んでいた土地に出来る限り尚早に再び居住することが重要であり、さもなければその土地を失う可能性がある、と語っている。民間セクターの経営者達とかかる経営者達が脇へ押しやろうとする各コミュニティとの間では多くの対立が存在している。例として、C.P. Seafood Company は、会社の保有するエビ養殖場を拡大する目的で、バンサック村のコミュニティを押し出そうとしている。

作図及び調査作業についてレック・ソンポップ氏による報告： レック氏は、数キャンプにてモーガンの団体と共に活動してきており、津波以前の居住地域の作図作業に協力している。同氏は、モーガンのコミュニティのネットワークを構築する上で、再開発プロセスを活用しようと考えている。

被災地の調査： CODI は、各キャンプ、被災したコミュニティ、及び他の支援団体と協力し、津波の被害を受けた6県のあらゆる被災地域及び家族についての情報を収集している。ある数地域では、それぞれのコミュニティ・ネットワークが調査を実施しており、また他の地域では、CODI が他の NGO と連携して、被災地、被災した家族の情報、行方不明者、津波以前の住居の状態、雇用、津波で失った身分証明書等についてのデータベースを構築し始めている。CODI の情報部（Information Unit）は、4 ページの調査用紙を作成した。現在、当該用紙を使用してパンガー県の3つの被災者キャンプ（バン・ムアンのキャンプ、バン・クッカックのキャンプ、及びタタワン通りのキャンプ）で調査を実施しようと各キャンプ・リーダー達と協力している。

CODI が調査を実施しているパンガー県の他の被災者キャンプ:

- **バン･クッカック キャンプ**: 当該キャンプには、約 **100 の家族**が暮らしている（60％がモーガン、40%がタイ人）。バンサック村から逃れてきた漁民の家族の多くが、この小規模なキャンプで生活している。彼らのほとんどが、モーガンの漁民（シージプシー（海の民））である。そして、彼らは全員血縁関係にある（彼らの姓は、2 種類の姓のうちのどちらかなのである！）。46 の家族が、ゴム園の列の間に設置されたシンプルなテントに暮らす、小さなキャンプである。美しく、日陰のある、静かな場所である。CODI は、現在上記の被災者達と協力し、彼らが何をしたいのか調査及び議論したり、復興計画を作り始めたりしている。道を挟んで反対側には、より歴史の古いモーガンの居住区がある。当該居住区は、かつて海岸沿いのコミュニティから追い出され、この内陸の地に住み着くことになった漁民によって作られた。現在は、非常に劣悪な状況下で暮らしている。当該キャンプは、カトリックの修道女によって運営されている。バンサック村の家族の約 30 世帯は、別の場所にいて、キャンプに暮らす人々はみんなが一緒にいられるように、かかる家族にキャンプに来るよう説得しようとしている。キャンプは、とても平和的及び活動的であり、危機的状況を一切感じさせない。子ども達は寄付された玩具で遊び、男達は女性のマットの上でカードゲームをし、サロンを腰に巻いたおばあさん達はビンロウの実の調合を念入りにしている。彼女達の歯や唇は、これを噛んで濃い赤色に着色している。若い男性の何人かは、ドラムを叩いている。また、タイ国軍の兵士の協力のもと、仮設住宅も建設中である。建設材の調達は困難な状況にある。プーケット及びクラビの供給業者では、どこでも売りきれてしまっている。モーガンの人々による団体は、とても強力である。寄付された物を他の人々と平等に分ける組織体制があり、全員が均等に物を受け取ることができる。彼らは、将来何をすべきかわからず、未だに元の場所に戻ることを恐れている。

- **タタワン通りのキャンプ** （バンサック副地区内） CODI による、当該キャンプの人々への第一回目の調査は終了している。このコミュニティに住む人々のほとんどは、無権利居住者である。不動産権利証書等の証明書を保有することの出来た幸運な人々だけが、住居や船の再建･修復の為に政府からの支援を受けることになる。現在、CODI と地域のコミュニティ･ネットワークは、人々が集まり計画を立てることが出来るよう、タタワン･キャンプに早急に仮設住宅を建設しようとしている。かかる仮設住宅建設の支援をしているあるネットワーク･リーダーは、このコミュニティは非常に強力で活動的なコミュニティだと、考察している（津波で夫や子ども達を亡くした未亡人さえもが、住宅建設の資金協力をしてくれる財団を探したりして活動している）。当該キャンプには、モーガンの人もいればタイ人もいるが、二つのグループが共に行動することはあまり無い。調理も別々に行い、会議もそれぞれが開催し、運営も異なる。キャンプに住む全ての人が、津波以前に住んでいた海の近くの居住区に戻ることを未だに恐れている。

- カオラック、クラビ、及びラノン付近のその他のキャンプ

政府による災害補償： タイ政府は、家の崩壊や船の粉砕等への補償として、各世帯につき 100,000 バーツの補償金の支給を約束している。しかし、人々の間では、被災者達がこの保証金を受け取るべき1ヶ月ほど前には、官僚によって不正が行われどこかに消えてしまうであろうという意見で一致している。そこで、政府が CODI に対し資金提供することを約束する契約を締結した上で、CODI が、人々に対し早急に直接この補償金と同額の「資金を提供」するという案も出ている。当該案は、CODI のバンコクチームにより、検討されることになっている。

孤児に関する議論： 多くの子ども支援団体及び NGO が、津波によって孤児となった子ども達の引取りを希望して現れている。地域の人々がどのように対処したいのか考える為に、孤児達について調査を実施し、この問題をキャンプの会議でも取り上げるべきだという議論が浮上している。地域の人々は、自分の地域の孤児たちを自分達で世話していきたいのか、それとも養子縁組の制度を活用したいのか。

子ども達が全般的に必要としているもの： バン･ムアンキャンプだけをとっても、450 名ほどの子ども達がいる。その内、約 200 名の子ども達は、毎日学校に通っている（兵士達が、地域の学校への送り迎え等の支援をしている。）。

仮設住宅建設団体による報告：（コミュニティ･プラニング･ネットワークによる） あるテレビ地方局は、仮設住宅に使用する建設材の寄付を呼びかけるテレビ時間枠を設ける。現在テレビに出演するボランティアを2名募集中。

寄付に関する問題： 寄付されたものがどのように取り扱われるのか、注意する必要がある。多くの団体が寄付を提供しようとしているが、それらの団体がただお金を渡し去って行くならば、混乱を引き起こし悪い印象を残すことになり得る。地元の人が、突然キャンプにやって来て一番初めに目にした人々に現金の入った封筒を渡し車で去っていき、その後には混乱を引き起こしたという事例も多々ある。このような事があり得る為、寄付された物を、*全体を見通し、情報を常に開示し*、且つ被災者自身で運営するシステムを通して、分配する必要がある。ある労働者の話によると、ある大臣が昨日キャンプを訪れ、仮設住宅建設を支援するボランティアそれぞれに対し1日につき 150 バーツを支払うことを約束した。かかる大臣は、約束するなり、リムジンに乗り込み去ってしまったという。その後、ボランティアの何人かが支払いを求めてやって来たが、リーダー達はただ「大臣に直接聞いてくれ！私達はその150バーツの支払について何も知らない。」と言うことしか出来なかった。このようにキャンプを訪問した政府高官による不注意な政治活動は、大きな問題を引き起こし得る。

被災した 6 県からの報告：

クラビ県からの報告：　ピピ島 ある CODI スタッフの報告によれば、（津波により壊滅的な被害を受けた）ピピ島では 100 世帯の家族が親戚と住まわざるを得ない状況であり、キャンプは設置されていない。CODI スタッフは、ピピ島の副地区当局と連携し、家の無い家族や必要物資の登録･確認をし、且つピピ島に早急に仮設住宅を建設する為、ユニセフと共同で委員会を設置しようとしている。多くの地主達が、仮説住宅地として土地の提供を申し出ているが、「6 ヶ月間のみの使用可」等多くの条件を付している。我々は建設に相応しい場所を見つけられなかったが、最終的に、あるイスラム系コミュニティが、モスクの近くに仮設住宅を建設することを許可してくれた。***ランタ島***では、ワールド･ビジョンが、仮設住宅を建設しており、CODI は、家を失った人々のコミュニティの組織化を支援している。地元の当局は、22 世帯のみが津波の被害を受けたと話しているが、我々は**より多数の**世帯が被災していることを確認した。深刻な集計ミスである。

プーケット県からの報告： この海沿いの漁村では、モーガンによる漁業コミュニティの住居のほとんどが壊滅状態となったが、人々は既に住居の再建に取り掛かっている。ラワイという漁村では、住居はそれほど破壊されなかったが、漁船が破壊された。ラワイでは、CODI のオーガナイザーが、船を修復する作業を通して、人々がそれぞれ協力し合う体制を作っており、そのような体制は後々土地の問題の解決にも役立つと考えている。ター・チャッチャイ村では、地元当局が人々を元々住んでいた場所から他の土地へ移動させようとしており、人々は移動することに同意した。CODI は現在、人々と協力して、マンコン村のコミュニティ再建プロジェクトを当該移転先で計画している。プーケットには、地域のコミュニティと連携している地元の NGO が存在している為、住宅再建及び土地の問題に関して CODI が情報提供すべきことはほとんど無い。

ラノン県からの報告： 当該県では、約 6 村が津波の被害を受けた。壊滅した住居は少なかったが、約 800 艘の船が破壊された。これらの船は、人々のライフラインでもあり生きてゆく上での必需品でもある為、新しい船の造船作業は重大な課題である。ラノンで亡くなった人々のほとんどは、船で海に出ていて津波の被害を受けた漁民であった。ラノンにはそこまで多くの旅行客はいなかった。最も重要な問題は、土地の問題である。当該地域の漁業を営むコミュニティのほとんどは、証書や賃貸契約等なしに、公有地に暮らしている。***パック・テリエム***村では、はじめの 15 ユニットの仮設住宅が建設されており、とても良い NGO がかかる村で活動しているので、CODI がすべきことは無い。***タレイ・ノック***村では、地元当局が仮設住宅を建設している。***バン・ベン***村では、タイ空軍が仮設住宅建設の支援をしている。***ハサイ・カオ***村では、ワールド・ビジョンが、仮設住宅を建設する予定である。

トラン県及びサトゥン県からの報告： 津波による被害は小規模である。各県で、5 又は 6 名の死者が出た。

パンガー県からの報告： アンポーン・カエウヌー氏は、CODI の南部地区事務所の代表である。同氏は、パンガー県のその他の地域について報告している。国立公園である***プラタン島***には、海岸沿いにモーガンの漁村が 4 村ある。いずれの村も法的な土地の所有権は保持していない。この内 2 村は、完全に壊滅状態となった。人々は高地に移動していて、津波発生以来、以前暮らしていた場所に戻ることを恐れている。彼らの保有する漁船のうち、300 艘が破壊された。多くの NGO が当該地域で活動しており、CODI は、人々の住居を伝統的なモーガンの暮らし方に沿った形で（材料：竹、高床式等）再建する上での人々の組織化に協力するよう、依頼を受けた。当該地域には、GIS システムがある為、集落の情報はとても豊富である。コミュニティに協力する為に、CODI の 2 名のオーガナイザーと 1 名の建築家をプラタン島に送ることが予定されている。現在のところ、かかる島には、3 つのリゾートのみが存在していて、人々は、観光の激化を懸念している。

早急な仮設住宅建設に向けた議論： 入居可能な仮設住宅がなければ、人々は戻ってこられず、且つ、人々が津波発生以前に暮らしていた土地から離れる期間が長ければ長いほど、その土地を失う可能性が高くなる。人々は散在しており、何をすべきがわからずにいる。彼らを再び集結させることが重要である。また、ピピ島に CODI のスタッフを派遣することも必要である。早急に人々と協力して計画作りをする必要がある。全ての仮設住宅の建設を 7～10 日

で完了させるという決定が成された。これがまずは目標である。タイ南部及び中部の他のコミュニティ・ネットワークの多くは、建設協力の申し出をしている。我々は、かかる労働力を活用し、建設工事を加速することが可能である。上記の通りの理由により、建設工事完了前に、人々を呼び戻すことが可能である。例えテントで暮らさざるを得ないとしても、人々をまとめることが出来る。注意すべき点は、人々は一緒にいなければならない、ということである。ボランティアスタッフは常に支援できるわけではないので、住宅建設に継続性を持たせる為に、上記のような労働、材料、道具、及び寄付に関する各地域での活動を調整する特別チームが設置されることも決定された。同氏は、さらに、バン・ムアンキャンプにコミュニティ・ボランティアが集中しすぎているので、人材の何人かを他のキャンプに送ることも、提案している。

今後の課題の要約は、下記の通りである。

1. **まずは、人々が戻ってこられるように仮設住宅建設を完了させることが第一課題である。その為に、早急に建設に伴う労働力、材料、及び道具を集め、建設に反映させる必要がある。たとえ住宅建設を開始出来なくとも、テントを設置する。**

2. **建築家の助けも借りた上で、今後長期的に居住することの可能な住居に関する再開発計画に被災者達と協力し取り組む。建築家は、コミュニティ・リーダーやコミュニティ・オーガナイザーと緊密に協力し合う。地域の再開発計画に関与している政府当局に対して、可能な限り早いうちに代案を提示することが重要である。**

3. **復興活動については、土地に関して協議を実施する為に地方自治体及び土地を所有する団体等と協調すること。CODI は、前文記載の協調活動に対して提供することが可能である。地方自治体によって土地が所有されている場合、協議は当該地域で実施されるであろうが、都市部の政府当局によって土地が所有されている場合は、CODI がバンコクにおける協議を支援することが可能である。**

4. **補償金： 政府から約束された補償金を受領するには少なくとも 3 ヶ月はかかるであろう。各地域は政府からの補償金を待っていては財政的に困難な状況になってしまう為、CODI が、政府と地域との架け橋になり、多くの活動に対してかかる補償金を前払いする必要がある。被災地域に補償金を早急に届ければ、地域の人々は再開発に取り掛かることが出来る。**

5. **情報： 我々は、他団体及び NGO と協調し、或いは、他団体と協調出来ない場合でも、被災した 6 県のあらゆるキャンプ及び被災地域に向けて、人々が入手すべき社会・経済情報を収集し、且つ (3 日毎に) 更新し続ける必要がある。情報は、タイ語及び英語により発信する必要がある。下記の 3 段階で情報を発信する。**

- **6 県全てに向けた情報**
- **6 県の各県に向けた情報**
- **各キャンプに向けた情報 (津波以前の集落の地図等の情報も含む。)**

6. キャンプの運営： キャンプに住む人々が復興プロセスを主導し、且つ全般的な運営を実施し、その結果再開発プロセスに向けて自信を持つことが出来るよう、かかる人々が支援団体等と協調及び活動をするプロセスを、我々が支援する必要がある。

被災者達に対する建築家による復興計画に関する支援： タイ国内の多くの建築家が、津波以前の居住地域の作図、並びに人々が再建する居住地域の新しいレイアウト及び住宅モデル等に関してコミュニティを支援する為、プーケット及びパンガー県に集まって来ている。

バンコクに所在する大規模な事務所である「**PLAN Architects**」からは、3名の建築家が訪れている（主任建築士1名、建築士補 2 名（O 氏、及び Ek 氏））。（**PLAN Architects** は、マンコン村プログラムにて実施されているコミュニティの整備プロジェクトに対して、デザインに関するコンサルタントを行うボランティア・スタッフの提供をしている。）

チュラロンコーン大学からは、2 名の建築学教授が6名の建築学の学生（最終学年の学生）を連れて、支援提供の為にパンガー県を訪れている。8 名全員が、バン・ムアンキャンプ付近にある、建設が半分終了している友人の平屋で仮住まいをしている。

プーケットの主任建築士1名もまた、建築学の学生を連れて訪れている。同氏は、特にプーケットの 6 地域再開発事業において、一切の政府関係者と知り合いであり、実施方法や計画の承認受領方法等、事業実施のノウハウがあるので、力になるであろう。

数日後、***Thai Union of Architects*** は CODI スタッフと協議をし、再建計画について被災地域を支援する為に、メンバーのうち 40 名の建築家を送ることに合意した。

上記のような設計士（主任設計士及び設計士補）による活動は、マハ・サラカン大学の建築士兼大学教授であるムック教授によってコーディネートされている。ムック教授は、マンコン村プロジェクトにて常時活動している。

上記のような連携（専門家と被災地域との連携）は、新しい取り組みであり、津波後の急務等に大規模な後援となっている。以上の方法によって、津波災害は、相互の協力関係及び連携関係を作り上げ、更にはこれまでは互いに理解することも考えることも無かったタイ社会の様々なセクター間で新たに互いに理解及び尊重する重要な機会、ともなっている。